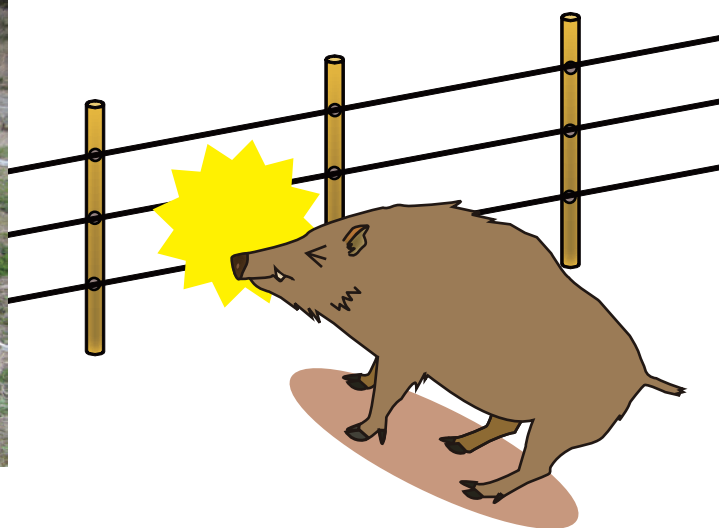


電気柵を用いた侵入防止対策

～効果を発揮・持続させるための管理～

特徴

電気柵は、被害を及ぼす多くの野生動物に対して効果を発揮します。
電撃による痛みを与えると同時に、それを学習させることによって、
効果を持続させることができます。



✓ 野生動物と防護柵との相性

種別	電気	金網	ワイヤメッシュ	トタン	ネット
シカ	○	◎	◎	✖	○
イノシシ	○	◎	◎	○	✖
サル	◎	✖	✖	✖	✖
クマ	◎	✖	✖	✖	✖
中型動物※	◎	✖	✖	✖	✖

※アライグマ、ヌートリア、ハクビシン、テン、タヌキ、イタチ、アナグマなど

👉 ポイント①

- 幅広い獣種に対応することができます。
- 設置が比較的簡単で、機動性があります。
- 野生動物に対して、電撃による痛みを「学習させること」が重要です。
- 他の柵と組み合わせることで、侵入防止の効果をより高めることができます。

✓ 注意が必要な点

- ・電圧が低い、柵線の間隔が広いなど、管理が悪く電撃を与えなければ、野生動物に悪い学習をさせてしまい、潜り込みや体当たりで破られて簡単に突破されるため、全く効果がありません。そのため、常に電圧を維持するための管理が重要です。

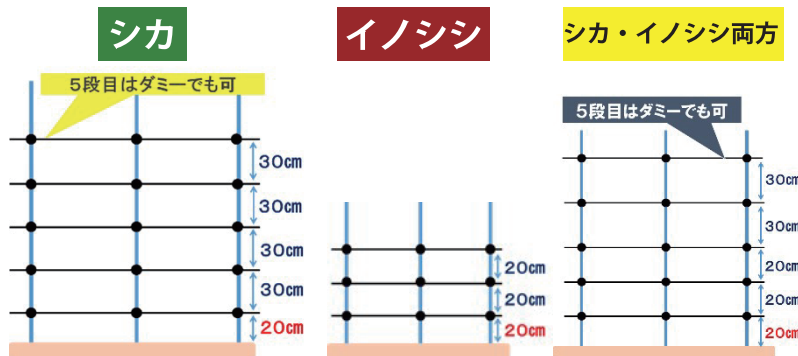
- 効く電気柵が、ダミーの電気柵も効かせる。 ⇒ 良い方向の学習
- 効かない電気柵が、悪い野生動物を作っていく。 ⇒ 悪い方向の学習

設置時のレイアウト

✓ 獣種に応じた柵線の適切な間隔

電撃を与えるためには、野生動物が鼻で探索する行動を逆手に取り、鼻先が確実に柵線に触れるように、獣種毎に決まった間隔で設置することが重要です。

大型動物の場合（シカ、イノシシ）



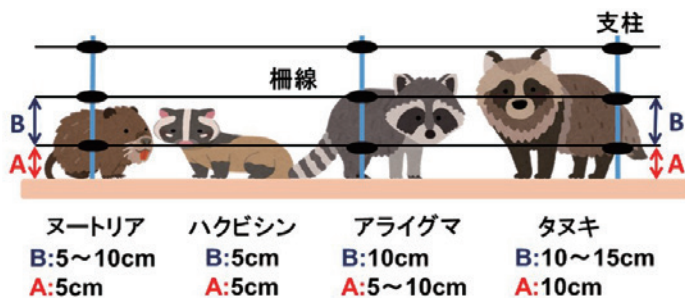
ポイント②

- 鼻先が自然に触れる高さ。
- 潜り込みにくい高さ。
- またぎにくい高さ。



最下段の柵線は、地面からの潜り込みを防ぐため 20cm の高さに設置し、2 段目以降はシカは 30cm の間隔で 5 段、イノシシは 20cm の間隔で 3 段を設置します。（ツキノワグマについてはイノシシと同様）

中型動物の場合（ヌートリア、ハクビシン、アライグマ、タヌキなど）



鼻先の高さが極めて低いため、地面からの柵線の間隔は 5 ～ 10cm と短く配置することが必要です。

（右図：除草作業の省力化を図る設置方法）

楽落くん

埼玉県開発：中型動物農作物被害防止柵

電気柵

ワイヤーの間隔を 3 ～ 5cm にして 1 本張ります。

ネット

幅 33cm の楽落ネット（又はトリカルネット）を通電しないグラスファイバーボール等で張ります。

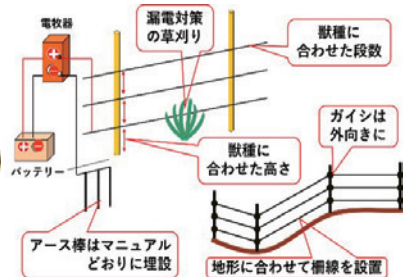


登るのが得意な習性を利用して感電させます。低いので圃場への出入りもまたいで入れます。

設置後の維持管理

効果を持続させるためには、図のとおり除草作業など、こまめな点検と補修が重要です。特に、電圧チェックは必ず行ってください。

痛みを与える電圧の強さは、最低 5,000 ボルトが必要です。



ポイント③

- 悪い学習をさせないために、通電は設置した直後から行い、通電を止める場合には、電気柵は撤去してください。
- 地面がアスファルトなどでは、電気を通しにくいので、動物の足が土にふれるように設置してください。

